

制作活動

～「みんなで大きなクリスマスツリーをつくろう編」～

発達障害のあるお子さんの中には発達性協調運動障害のお子さんもいらっしゃいます。発達性協調運動障害とは、年齢や能力から期待されるよりも協調運動がぎこちない（不正確）もしくは難しい（困難）障害のことで、不器用症候群と呼ばれていた時期もあります。ボールを蹴る、縄跳びをすることといったことが苦手なお子さんや、物をつまむ、引っ張る、ボタンを外すといったことが苦手なおさんは、発達性協調運動障害かもしれません。おさんは不器用なりに努力をしているわけですから、努力していることを褒めてあげたり、繰り返し練習させてあげたりすることが大切です。

今回は、不器用なお子さんでも楽しめそうな制作をご紹介します。

活動の流れ

【用意する物】

モミの木型（ダンボール）、新聞紙、色画用紙（緑、黄緑）、折り紙（ホイル折り紙）、飾り、セロテープ、両面テープ、糊 等

【飾り作り】

- ① 新聞紙を丸める
- ② 折り紙を被せる
- ③ 裏にセロテープを貼って完成

【モミの木作り】

- ① 緑や黄緑の画用紙を好きなようにちぎる
- ② ちぎった画用紙をモミの木の好きなところに糊で貼る
- ③ 段ボールが見えなくなったら完成

【モミの木に飾りを付ける】

- ① 自分が作った飾りを両面テープでモミの木に飾る
- ② ☆やドットシール、綿等、他の飾りを飾る



ポイント

●どの発達段階のお子さんでも楽しめるような制作を企画する

同じ制作でも発達段階や年齢によって道具を使い分けたり、過程の難易度を上げ下げしたりするだけで、幅が広がります。

例えば、今回取り上げたクリスマスツリーの制作を1年生から6年生みんなで取り組むとします。同じ道具を使ったやり方では、1年生にとっては難しいけれど、6年生にとっては物足りないと感じる作業もありますよね。不器用なお子さんにとっては、ハサミを使うことに苦手意識がある場合もあります。手で紙をちぎることだけを共通のルールにして、器用なお子さんにはできるだけ小さくするよう声をかける、あるいは糊付けに関して、一つ一つの紙片に糊を付けることが苦手なお子さんは、一面に糊付けされた場所を紙片で埋めていく等、同じ制作でも発達段階を考えて工夫するだけで、どの年齢でも楽しむことができる制作になりますね。



ポイント

●子ども主体で制作を行う

今回のクリスマスツリーの制作では、お子さん主体で自由に制作を行うために完成図を用意しませんでした。見本どおりに作らなければならないという枠組みを用意しなかったため、子ども達は思い思いに制作を楽しむことができました。また、材料も子ども達が自由に選ぶことにしました。用意した材料の他に、身近にある物も制作に取り入れる、お子さん達の想像力・発想力をみる良い機会になりました。

ポイント

●みんなで一つの物を作り上げる

発達障害のあるお子さんの中には、集団活動が苦手なお子さんもいらっしゃいますが、将来を考えると少しずつでも集団活動に慣れる必要もあると思います。今回のように

- ・手順書を用いることで、すべきことをはっきり明示する
- ・自分のペースで作業することを保障する
- ・あえて細かなルールを設けない 等

の工夫をすることで、集団活動への参加のハードルが低くなるのではないのでしょうか。

